

## 運営委員日帰り研修会 防災の模擬体験・・・本所防災館で

住民交流部会では昨年に引き続いて、運営委員を対象とした日帰り研修会を9月27日(火)に運営委員29名の参加を得て行いました。

研修先は東京「本所防災館」。ここは東京消防庁の管轄下にあつて、防火・防災に関する知識や技術、行動などを学んだり、各種防災シーンをシミュレーションを使って疑似体験が出来るという施設です。

今回の研修では、暴風雨、地震の揺れ、都市型水害、消火活動についてそれぞれ体験出来ました。いずれも今後の活動で、地域における防災対応を考える上で貴重な経験となりました。

以下に研修内容をレポートします。

9月27日(火)午前9時、中央学習館前広場へ集合、市の大型バスで常磐道～首都高で防災館近くの「東武ホテルレバント東京」へ。そして、同ホテル内のレストラン「ヴェルデュール」で昼食となりました。



### バイキング料理で腹ごしらえ

東武ホテルレバント2階にあるレストラン「ヴェルデュール」が昼食会場。ここのランチブッフェメニューで思い思いの料理を取り分けての賑やかな腹ごしらえとなりました。

・・・サイコロステーキが(霜降り加工牛ながら)美味しかった・・・食通連の評価でした。



### いざ、防災館へ



昼食後さっそく、本所防災館へ向かいました。JR 総武線錦糸町駅から徒歩10分ほどの位置にあります。

ここは体験ガイドツアーを主体に、楽しく防災を学べることから、東京のみならず各地から来る人も多く、平日でも混雑しているようです。都内で唯一、暴風雨体験・浸水時の水圧ドア体験が出来る施設とあります。

予約した研修時間までは少し余裕がありましたので、館内の防災啓発の資料や物品などをじっくり見て回ることが出来ました。



防災グッズでは非常用レトルト食品などに女性委員の皆さんの関心が集まったようです。



いよいよ体験・・・

ガイドさんの案内で先ず、映像シアターで東日本大震災時の映像で災害が発生した際に生じる各種被災状況のイメージを頭に焼き付けられた上で研修が進んで行きました。

### ① 暴風雨体験コーナー



各種サイズのレインウェアが用意されていてこれに着替えていざ体験室へ。風速30メートル、時間雨量30ミリ下の暴風雨にさらされると、視界はもとより呼吸さえもままならない状態を体験出来ました。



次の体験コースへ移動する間に、「液状化実験コーナー」の前を通りました。装置が起動してしばらくすると振動で軟弱化した地盤上のビルが見る間に沈下、傾く様を見ることが出来ました。地震で地盤が弱くなり、建物傾斜・沈下の元となる液状化現象を再現する、全国で稀な展示場ということです。

## ② 都市型水害体験コーナー



局地的集中豪雨や津波で、都市の地下部分の部屋のドアや浸水して水圧がかかっている自動車ドアの開放の困難さを体験しました。

浸水の深さごとにドアに掛かる水圧が機械的に再現されて、冠水20cmを超えるようになると、ドアを押し開けるための力は並みの大人でも容易でなく、逃げ遅れの危険を実感出来ました。



また、冠水路を無理に走って浸水した際の車のドアに掛かる水圧を体験出来ました。

集中豪雨と豪雨災害が珍しくなくなり、車を利用する機会の多い昨今にあっては身近で起こり得る被災の一つと考えなければなりません。



緊急脱出用ハンマー(一例)

## ③ 地震体験コーナー



台所を模した部屋で、阪神淡路大震災や関東大震災など、震度7までの地震を体験出来ました。

本物そっくりの地震の揺れで、その恐ろしさを知り、いざという時に的確な行動をとれるだろうか・・・研修者の率直な感想でした。

#### ④ 消火体験コーナー



訓練用の水消火器を使って、操作と消火法を体験しました。

広めの部屋にガラススクリーン張りで見通せる装置に、家庭で起こり得る火災の状況が映像で映し出される仕組みになっていて、いかにも実際の火事に遭ったように感じられます。

火災の程度が携行の小型消火器で消化可能か否かの見極めが難しかったです。



表

このように4つのコースを真剣に、時にはお互いの経験を交えながら体験し終わりました。

そして、ひと通りの体験コーナーを終了すると、ガイドさんから「防災体験カード」が渡されました。このカードが5枚集まると「終了証」が付与されるのでした。

裏

最近、全国的に思わぬ災害に見舞われることが多くなっています。模擬体験ながら、いざ実際に遭遇したらどうするか・・・を考える貴重な研修となりました。